

園芸導入にあたり注意する点

水稲部門を補完して所得を確保するため、収益性の高い園芸作物の導入は有効です。

また、法人従業員等の年間を通した労力の有効活用や女性・高齢者の役割発揮の場として期待されています。

一方、安易に導入すると「当初考えていた売上目標が達成できず園芸は儲からない」と、かえってマイナスになることもあります。園芸導入にあたっては、以下の事項について十分検討して、導入を判断してください。

(1) 排水対策が必須

ア 園芸作物の多くは湿害に弱く、地表水が長時間溜まるようなほ場では生育不良となり収量が激減するおそれがあります。排水の良否を十分考慮してほ場選定してください。

イ ほ場周囲に排水溝を掘り、地表水がすみやかに排水するようにしてください。また、高うね栽培も有効です。

(2) 販売リスク

ア 出荷物の品質や販売先による価格差が大きく、また出荷時期や年次によっても価格が変動します。

イ 「どこに販売するか」販売ノウハウがあるJA出荷部会がある品目を選定する方法もあります。

(3) 品目により専門の栽培技術が必要

ア 目標の収量・品質を達成するには、品目に応じた適切な栽培管理が求められ、技術習得には数年の経験が必要です。

イ 法人等では、園芸専任の担当者を決めることで、適期を逃さずに管理作業を行うことができます。

(4) 機械化が進んでいない品目が多い

ア 品目によって労働時間が大きく異なりますが、水稲に比べて機械化が進んでいないため労働時間が多くかかります。

イ 水稲の主要作業と競合を十分考慮して品目を選定してください。

(5) 品目によっては、施設・機械や種苗などの初期投資が大きい

ア JAでは品目によって移植機や管理機などの栽培に必要な機械を貸出しています。

イ 機械・ハウスや種苗などの導入に補助制度が活用できる場合があります。JA、市、振興局に相談してください。

(6) 資金

ア 初期投資が大きいため、資金の確保が必要です。JA、市、振興局に相談してください。